
帰国渡日児童生徒つながる会

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

- ・名称「帰国渡日児童生徒つながる会」
- ・目的

現在京都府内の学校には、国際結婚の家庭に生まれた子どもや、在日外国人、帰国児童生徒などさまざまな形で「外国につながる児童生徒」たちが点在している。そのような子どもたちは、言葉や文化が違うということから、他の日本人の子どもたちとのコミュニケーションが上手いかず、クラスで孤立してしまうことも多いようである。また、彼らの学校に「外国につながる児童生徒」が少ないことも多い。そのため、悩みを相談できる人がおらず、一人で抱え込んでしまうこともある。つながる会は、同じ境遇にある子どもたち同士が出会い、共に活動する場を提供している。そして、その場を通じて彼らと同じようなことに悩んでいる人がいるのだと知り、そんな悩みを分かち合える友達を得ること、また一人一人が持つ個性を尊重し、自分自身や自分のルーツに自信を持ち、彼ら自身がその国の言語や文化を大切にできるようになることを目的として2008年度より e-project を利用し活動を続けている。

去年の活動の大きな反省点として、スタッフの拡充があまりできなかったことが挙げられた。しかし、今年は7人ものスタッフが新たに活動に参加してくれることになった。そのため今年はスタッフの多さを活かし、野外活動など、同じ境遇を持つ子ども達同士が新たなつながりを持ちやすいような活動を行うことを目的の一つとしている。

2. 代表者および構成員

・代表者
尾嶋美菜子 教育学専攻 3回生

・構成員

口石 梨絵	教科教育専攻国語教育専修	2回生
郭 焜	教育学研究科学校教育専修	1回生
嵯峨根早紀	教育学研究科学校教育専修	1回生
細見真莉子	教育学専攻	3回生
上田美彩瑛	幼児教育専攻	3回生
北岡 知佳	英語領域専攻	3回生
妹尾花菜子	教育学専攻	2回生
山下 舞子	国語領域専攻	2回生
飴田 成香	幼児教育専攻	1回生
川勝 柚香	社会領域専攻	1回生
関 佳那子	体育領域専攻	1回生
村上 舞	国語領域専攻	1回生
山下真衣香	幼児教育専攻	1回生
山本 彩生	幼児教育専攻	1回生

3. 助言教員
浜田麻里先生 (国文学科)

第2章 内容や実施経過など

1. 実施経過

4月 新入生勧誘
5月 夏の活動を企画
6月 夏の活動内容検討
7月 夏の活動内容決定
夏の活動準備
8月 大学において夏の勉強会を実施
アクトパル宇治において夏の活実施
11月 冬の活動内容検討、決定
たけのこ会実施
12月 ヒューマンフェスタに参加予定
大学において冬の活動実施予定

2. 実施内容

(1) たけのこ会

日時：11月22日 14時から17時まで

場所：京都市地域多文化交流

ネットワークサロン

内容

つながる会では、今まで月に一度フィリピン人団体「パグアサ」と連携し、主にフィリピンにルーツを持つ小中学生・高校生の学習支援を行ってきた。14時から16時半までは、それぞれの子どもたちが持ってきた課題（学校の宿題、教科書、問題集等）をすすめる。その間、随時学生がフォローに入り、個別に指導を行う。

しかし、今年度はパグアサの都合でたけのこ会を月に一回行うことができず、5月、7月、11月のみの活動となっている。

11月の活動には、小学生から高校生までの子どもが参加した。スタッフは、小学生とは漢字の宿題をしたり、九九を覚えたりし、休憩時間には近くの公園で一緒に遊んだ。

(2) 夏の活動

日時：2015年8月16日、17日

場所：16日 京都教育大学

17日 アクトパル宇治

内容

16日には勉強会と17日の野外活動（バーベキューなど）の準備、17日には野外活動（バーベキュー）を行い、基本的に子ども達とスタッフは、両日ともに活動に参加した。17日には、野外活動が得意なつながる会の構成員でない学生に当日スタッフとして参加してもらった。

<16日>

京都教育大学において、夏の活動を行った。

スタッフは8時に集合し、9時15分にJR藤森、京阪墨染に子どもたちを迎えに行った。子ども達と一緒に大学へ戻り、そこから小休憩、昼休憩を挟んで13時まで勉強会を行った。子どもたちは学校で出された夏休みの課題を主に勉強しており、随時ス

タッフが子どもたちに声をかけながらフォローを行った。来日したばかりで、日本語がまだあまり理解できない中学生の男の子に対して、スタッフが英語を使い、図も書いて通分の説明をしていた。また、中学生の女の子は、数学や英語の宿題には難なくこなしていたが、新聞を読んで自分の意見を書くという宿題に苦戦していた。

13時から、次の日の野外活動での班分けを発表し、アイスブレイクとして人間知恵の輪を行った。その後、班ごとに次の日の野外活動で作るメニューを決め、それに基づいて食材の買出しを行った。その際、一班で使える予算を定め、それを有効に使うために話し合いながら買出しを行うよう促した。

子どもたちが大学へ戻ってきたあとにお菓子を食べて16時ごろ解散した。

<17日>

スタッフは8時に大学に集合し、打ち合わせを行った。9時15分にJR藤森、京阪墨染に子どもたちを迎えに行った。

大学に戻り、貸切バスでアクトパル宇治まで移動した。移動中には、風船に貼ったセロハンテープを剥がす速さを競うゲームや、目を瞑ってちょうど1分間を当てるゲームなど、子ども達がバス酔いせずに楽しめるようなレクリエーションを行った。

10時15分頃にアクトパル宇治に到着し、調理器具や材料を配布し、調理器具を使う際の注意などを行った上で、調理を開始した。参加者の中には、野外活動をあまりしたことのない子どもも多く、火をおこすのに手間取っている子も見られた。しかし、当日スタッフとして参加してくれた学生が適切に子どもたちに声を掛け、必要に応じてアドバイスをしたり、場合によっては手を貸したりしてくれたので、スムーズに活動を進めることができていた。

食材が焼きあがった班から食べ始めた。13時半ごろから、子ども達は、施設内にある小川や広場で遊び始めた。初めのうちは、同じ班で仲良くなった子ども同士や、同じ学校に通っている子ども同士で遊んでいる姿が目立ったが、スタッフが仲立ちすることによって、最後には子ども全員でドッジビーで遊ぶ姿を見ることができた。

その後、参加した子ども達に、自分の感想と自分

の班の班員が頑張っていたところを記入してもらい、貸切バスで大学まで戻り、その後解散した。



(3) ヒューマンフェスタ

日時：2015年12月6日

場所：京都テルサ

内容

ヒューマンフェスタに今年も参加させていただいた。ブース設営、舞台上での10分間発表を行い、子どもたちの現状やつながる会の活動を紹介した。

去年のヒューマンフェスタの最大の反省点は、準備不足で臨んでしまったことであった。例えば、つながる会の連絡先を掲載したフライヤーを作っていないため、ブース展示を見てつながる会の活動に興味を持ってくださった方がいてもその後連絡をとることができなかったことなどである。それを生かし、今回は、外国にルーツを持つ子どもたちの現状や、つながる会の活動を簡単に紹介し、連絡先を記載したフライヤーを作成した。また、去年のブース展示にも改良を加え、絵や写真を使って来場者に興味を持ってもらえるように工夫した。舞台上の10分間発表でも、フィリピンの童謡を歌ったりクイズをしたりして、つながる会の活動をPRすることができた。



ヒューマンフェスタ会場の様子

(4) 冬の活動

日時：2015年12月27日

場所：京都教育大学 A1 講義室、調理室、C棟前

内容

スタッフは朝8時に集合し、当日の活動中の班決めと子供たちの情報の共有、勉強会の準備を行った。9時までに、子供たちの集合場所である本校正門前・京阪墨染駅・JR藤森駅に二人ずつ学生が向かった。

到着後順番に名前を確認するとともに、テープを配布し名前を書いてもらい、名札としてつけてもらった。学生も同様に、呼んでもらいたい名前を書いて貼っておいた。全員が集合するのを確認して、子供たち一人一人が学校名・学年・名前・自身のルー

ツである国・好きな食べ物を紹介する、全体での自己紹介を行った。

その後いくつかのテーブルに分かれ、各自持参した勉強道具で自習する時間を設けた。同時進行で、この時間に餅米を準備しておいた。途中休憩を挟んだり、お菓子を配るなどしながら、わからないところを教えたり勉強が進められるよう指導したりしていた。社会や理科の宿題をした時 問題文に出てくる漢字が読めなかったり、言葉の意味がわからなかったりして、つまづいていることがあった。問題文を読み上げたり言葉の意味を説明したりすれば答えられる(ところもある)ので 丁寧な指導が必要だと感じた。勉強時間が長く、普段のノルマを大幅に上回る量をこなすことができた。また、勉強会の休憩時間には それぞれの国が違っても “日本ではあまり聞かないが世界的には有名な曲” の話題で共通点が生まれ、話が盛り上がり嬉しそうにしている子供達の姿が見られた。

昼休憩後外へ移動し、事前に臼を運んでおいたところへ炊いた餅米を持ってきて、米粒を潰し、餅の形状になるよう杵を用いてついていく作業を子供たちでローテーションに回して行った。中学生の男子たちが 照れつつも積極的に力仕事をこなしてくれた。まだ日本語が流暢でない子どもは母語が同じ子同士がスタッフの説明を通訳するなど、協力し意思の疎通に困ることはなかった。つきあがった餅は調理室に運び、班ごとに砂糖醤油・醤油海苔・きな粉・あんこに味の担当を決めて味付けした。この際、子どもたちを4～5人ずつ4グループに分けて活動を行った。つながる会に参加してくれる子どもたちは、自分のルーツのある国の言葉のほうが日本語よりも得意であるケースも多く、同じルーツを持つ子どもたち同士のほうが話がしやすいので、仲良くなりやすいと思われる。そのため、今回はグループ分けを工夫し、同じ国にルーツを持つ子どもたちをある程度かためて同じ班にしてみた。

全て出来上がってから全員で試食を行い、その場で子供たちに活動の感想を書いて提出させた。

その後、餅つきを行った場所で参加者全員で記念撮影をし、朝の集合場所まで子供たちを送った。学生のみで片付け・反省会を行い、解散した。



第3章 結果や成果など

1. たけのこ会

たけのこ会では、中学生の頃から勉強会に参加してくれていた子が、高校生になってもまだ参加してくれている。たけのこ会に、中学生時から高校生までも継続的に参加してくれることによって、スタッフとしては、外国にルーツを持つ子どもたちが進路選択や学校生活においてどのような壁にぶつかり、どのように乗り越えていくのかを知ることができた。参加者の子どもとしては、同じフィリピンにルーツを持つ同年代の子どもとつながることができ、進路や学校生活での悩みを共有することができるのではないかと考えられる。また、参加者の子どもが私達スタッフに学校生活の楽しさや悩みについて色々な話をしてくれたことから、彼女らが大学生のスタッフと話すことで、ふさぎこんでいた気分を晴らすことや、悩みの解決の糸口を見つけることができているかもしれない。

2. 夏の活動

夏の活動での成果としてまず挙げられることは、17日の活動に参加した子どもたちが、全員で一緒に遊んでいる姿が見られたことである。

今までの活動では、参加者の子ども達はどうしても同じ学校の友達同士やもともと知り合いの子同士でかたまっていることが多かった。しかし今回は、スタッフが、スタッフも一緒にみんなで遊ぼうと声を掛けた。スタッフが子ども同士の橋渡しを行い、さらに一緒に遊ぶことはとても大切なことだと分か

った。参加者全員が一緒に遊ぶことで、同じ境遇を持つ子ども達同士がつながるきっかけができたのではないかと思われる。

2. ヒューマンフェスタ

今回のヒューマンフェスタで特に手ごたえが感じられたのはステージ発表である。ヒューマンフェスタの来場者には、小さい子どもの親子連れが多かったのだが、つながる会の、外国にルーツを持つ子どもたちを取り巻く問題についてのクイズを一緒に考えてくださり、また答えと解説もうなずきながら聞いてくださった。

結果として、多くの方々に帰国渡日児童について、またその実態や問題解決への活動を知ってもらおうという当初の目的に沿って活動ができたと言える。

4. 冬の活動

勉強会では、子ども達の目の前の問題である、学校の成績に直接関わるテストや学校の授業内容の学習を私たちが手助けすることで、子ども達は学習意欲を得られたと思う。できる限り、学習がストレスにならないように丁寧に教えることで、子どもたちは途中で投げ出すことなく、前向きに学習に取り組んでくれた。これからの活動においても、子ども達の学習意欲を高めていきたい。

餅つきについては、日本の伝統である餅つきをすることは子ども達にとって貴重かつ有意義な経験になったようだった。どのグループでも楽しそうに餅を丸めていた。餅が伸びるので、中には、餅を「不思議な食べ物」だと思い、面白く感じている子も居た。餅が苦手な子も居たが、好き嫌いに関わらず、日本の文化を知るということは、子ども達にとって良い経験になったと思う。また、今回はある程度、同じ国にルーツを持つ子どもたち同士を同じグループにしたので、前回までの活動よりも子どもたち同士の距離が縮まっていたように思った。最後に書いてもらった感想の中には、今回の活動は楽しかった、というものや、次の春の活動もぜひ参加したい、というものがあつた。

第3章 まとめと反省、今後の展望など

1. たけのこ会

たけのこ会は、これからまた月に一度のペースで行われることが予想される。今までは、スタッフの確保ができず、少ない人数のスタッフで活動を行うこともあつたので、これからはスタッフの確保をしっかり行いたい。

2. 夏の活動

今年の夏の活動で良かった点は三点ある。

一点目は、前もってアクトパル宇治に下見にいたり、各スタッフの当日の動きをタイムテーブルにまとめたりして計画的に準備をすすめることができた点である。

二点目は、スタッフの人数が去年に比べて多かったこともあり、貸切バス内でのレクリエーションや、調理器具の説明など、スタッフが自分の役割を持ち、さらにスタッフ同士が協力してスムーズに活動を進めることができていた点である。また、一人のスタッフが前で全体に向けて説明している間に、他のスタッフが子ども達の間を回り、説明を理解できていなさそうな子どもには個別でフォローを入れることができていたのもよかった。

三点目は、班分けを工夫した点である。参加する子ども達が通う学校の先生方から、事前に子どもたちの情報を知らせていただいていた。そのため、その情報をもとに、班の中でリーダーとなりうる子どもの配置や、同じ学校の子供達を固めすぎないことなど、様々なことに配慮をして班を決定した。

反省点としては、食べ始めるタイミング（焼けたものをみんなであつまんで食べていくのか、ある程度食材が焼けた班から班ごとに食べ始めるのか、みんなで一斉にいただきますをする）など、細かいルールを決めきれておらず、少し混乱が生じてしまったことである。次の冬の活動では、シミュレーションをしっかり行って細かいルールを事前に決めておき、子ども達が安心して活動できるようにしたい。

3. ヒューマンフェスタ

今回のヒューマンフェスタは、去年の反省をいかして、フライヤーを作成したがブースに置いていただけで、積極的にブースを見に来てくれた方に渡しに行くことができなかった。また、つながる会にき

てくれた方につながる会について伝えたいことの共有がスタッフの中でできていなかったことも今後の課題のひとつである。ブースに立つにあたってのスタッフの積極的な姿勢やスタッフ内での情報共有が必須になるだろう。一人でも多くの来場者に、つながる会の活動や、外国にルーツを持つ子どもたちの現状に興味を持ってもらうためにはどうすればよいのかを意識して改善に努め、来年のヒューマンフェスタをよりよいものにしたい。

4. 冬の活動

前述したように、今回はある程度、同じ国にルーツを持つ子どもたち同士を同じグループにしたので、前回までの活動よりも子どもたち同士の距離が縮まっていたように思った。次年度の活動では、同じ国にルーツを持つ子どもたち同士の仲をもっと深め、色々な話をするができるような間柄にすると同時に、違う国にルーツを持つ子どもたち同士も楽しく関わられるような活動の内容や活動の仕方を考えていきたい。また、今回お餅つきをするというのはよいアイデアだったと思う。次年度以降も、子どもたちが楽しみながら他の参加者と仲を深めていけ

るような活動を考えたい。

5. 今後の展望

今後は、さらに参加者の子どもたち同士が深いかわりを持てるようにしたい。そのために、活動時や勉強会の休み時間では、スタッフ一人ひとりが自覚を持って、子どもたち同士をつなげるような働きかけをしていきたい。

また、子どもたちの将来につながるような効果的な学習支援を行っていきたい。そのためには、月に一度のたけのこ会や、春・夏・冬に行われる勉強会に、子どもたちが継続して参加することが必要である。よって、子どもたち同士が仲良くなることはもちろん、子どもたちとスタッフもよい関係を築いて、子どもたちが「またつながる会、たけのこ会の活動に来たい」と思ってくれるようにしたい。その上で、参加者それぞれの得意分野、苦手分野などをスタッフが共有し、子どもたちそれぞれに合った長期的な支援ができるようにしていく。